

# 玉野市立後閑小学校

・児童数65名 ・学級数7学級 ・教職員数16名（平成26年8月31日現在）

## ○取組実践のキーワード

個々の学力差に対応した指導の在り方

## ○標題（研究主題）

どの子も分かる喜びを得られる授業づくり

## ○取組を始めた経緯

今年度も昨年度に引き続き、「魅力ある授業づくり徹底事業」の指定を受けた。児童にとっての魅力ある授業とは、「分かったという喜び，できたという達成感を味わえる授業」だと考える。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果からも「自分の考えを説明することがよくできている」「立式の理由を論理的に説明することができている」という成果が見られた。しかし，一方で「資料の読み取り」「教科ごとにキーワードや用語を使う」「指示された細かい条件に合わせて書く」という点に課題が見られた。これは昨年度末の研究のまとめで見られた課題とも類似している。

そこで，今年度は昨年度のテーマを引き継ぎ，昨年度の国語科に絞った研究から他教科へ広げていく。特に「書くこと」に重点を置き，「キーワードや用語を確実に押さえる力」「条件に合った文章を書く力」が向上するように研修していく。また，実践に取り組む中で，どの子にも「分かった」「できた」という喜びを得られるような，個々の学力差に対応した効果的な支援の方法を探っていきたい。

## ○取組の実施体制

- ・毎週水曜日を定例の研修日として，共通理解を図りながら研究を推進する。
- ・先進校や文献からの事例研究をしたり，外部講師による研修会をしたりする。
- ・全学年において，研究授業・研究協議を実施する。

## ○学力向上に向けた具体的な取組

<国語>

- ・1時間の中に，「読む」「書く」「話す・聞く」活動をバランス良く取り入れる。
- ・ペアやグループでの話し合いや考えたことを書く活動を多く取り入れる。その場合の支援として，書き出しを示したり，何文字・何行以内などの条件を示したりして書かせていく。
- ・国語辞典や漢字辞典を活用し，語彙を増やすようにさせる。
- ・漢字学習では，筆順に注意しながら意味も十分につかませて，読み書きができるように指導する。また，日記や作文など，生活の様々な場面で漢字を積極的に使用することを指導する。
- ・登場人物の気持ちや行動等について，自分の考えを記述することで，考えを深める力を身に付けさせる。
- ・読書指導は，図書室を活用して読書の時間を確保する。さらに，司書とも連携を図りながら，いろいろな種類の本へと幅を広げていくようにする。

## <算数>

- ・朝の学習の時間や授業の開始時に基礎的な問題に繰り返し取り組み、計算のスキルを身に付けさせる。
- ・少人数学級の良さを生かし、できる限りノートに目を通し、つまずきを早期に発見し、個別指導を行う。
- ・文章題に数多く取り組み、指導する際には、絵・図・表を取り入れたり、デジタルテレビ等のICT機器を活用し、視覚的支援を積極的に行う。
- ・問題の解き方をノートに記述させるなどし、論理的思考力の育成を図る。
- ・図形領域では、めあてに沿って作図をさせるなどし、図形の特徴を繰り返し意識化させる。
- ・算数が日常生活で使われている場面を体験させるなどし、算数を身近なものにする。

## <共通>

- ・校内でノートの書き方を統一し、学年が上がってもスムーズに授業に臨めるようにした。また、岡山型学習指導のスタンダードを基に、授業の流れも統一した。振り返りでは、分かったこと、分からなかったことなどを書くことにより、書く力を高め、理解度を自分で把握する機会とする。
- ・意欲的に課題に取り組むことができるように、導入の工夫をしたり、学習の流れを示したりする。
- ・決められた時間内に全ての問題に取り組めるように、普段から時間配分に気を付けるように指導するとともに、1時間の授業づくりも工夫する。
- ・どの教科でも計画的に図書館利用をするとともに、朝読書に学校支援ボランティアによる読み聞かせも取り入れ、生活読書へつなげる。
- ・土日（休日）の学習習慣を身に付けさせるために、宿題に読書や日記を取り入れる。
- ・学習内容の理解が不十分であったり、家庭学習習慣が身に付かなかったりする児童については、保護者との相談の上、昼休み、放課後、長期休業中に個別指導を行う。また、長期休業中には、他の児童にも呼び掛けて学習会を行い、学習意欲の向上も支援する。

## ◇補充学習

- ・後閑小タイム（月1回程度）

「たまのっ子算数プリント」や「学習到達度確認テスト」などを利用し、それぞれの学力に応じた問題に取り組み、苦手な課題を克服する。

- ・パワーアップ教室（希望制）

夏休みの宿題や苦手な課題などに集中的に取り組み、丁寧に解説するなどのきめ細やかな指導により、学力の伸長を図る。

- ・朝の学習（月曜日（第2・4）・火曜日・金曜日）

当該学年までの漢字や計算の復習し、確実な習得を図る。

- ・放課後個別学習（希望制）

その日に理解できなかった問題などを個別指導し、分からないことを残さないようにする。

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

平成25年度から、国語科の研究に取り組み「書く力」「説明する力」の向上のための研究授業を行った。その結果、「書くことに対する苦手意識が減ってきた」「根拠を示して理由などを説明できるようになった」「『まず』『次に』『最後に』など、接続詞を使って順序よく説明ができるようになった」「はじめ、中、終わりの三段構成の説明文を書くことができた」「説明文を読んで要旨をまとめることができた」といった成果を上げることができた。

加えて、教職員が互いの授業の良いところを積極的に取り入れ、授業改善が図られた。

平成26年度も引き続き昨年度からの研究に取り組み、ワークシートやヒントカードの工夫、書き出しを示すなど、学力差に応じた指導の成果が少しずつ表れてきている。

### 2 課題

「考えや理由を書く力」や「条件に合った記述をする力」に課題がある。

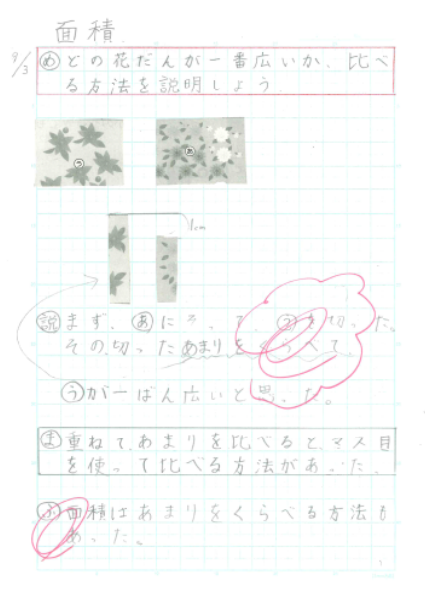
## ○取組の継続・発展の要因

授業の中で、**めあて** を示し、**まとめ** **ふりかえり** という一連の授業の流れやノート指導を全校で統一することを始めた。繰り返し指導して定着を図っていききたい。

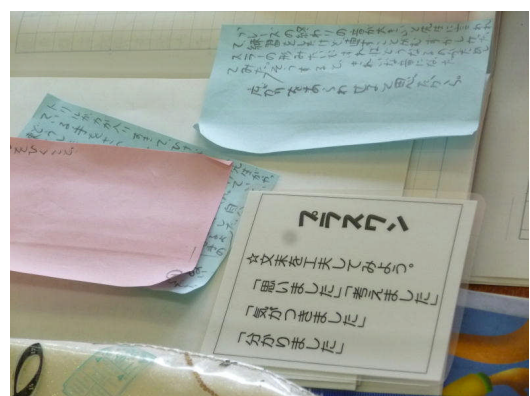
## ○管理職・中核教員等のアクション

- ・中学校区で「ノーメディアデー」の取り組み、メディアから離れて家庭学習の時間の確保を試みる。
- ・毎月、校長先生「漢字テスト」、教頭先生「計算テスト」を行う。80点以上を合格として、合格できるときまで再テストを行うことで、基礎学力の定着を図る。

## ○その他の資料・写真等



**ノートの書き方の統一**



**個々に対応した指導**